

WADAIKO

FORADA

2013年 世界ツアー 総集編





2013年も12月師走。

私たちの前を怒涛の様にかけて行ったこの1年間の和太鼓トカラニュース総集編です。
まずは月を追って1年を振り返り、「今年トカラは何していたの?!」の質問に、
簡潔にお答えしたいと思います。

1月 隣村阿智村昼神温泉郷でのお正月祝い打ちで始まった2013年。今年もお陰様で三が日を太鼓演奏で過ごさせて頂きました。太鼓打ちにとって何より幸せな新年の幕開けです。ありがとうございました。

2月 飛行機に乗り、カナダへ。バンクーバー-TOKARA初コンサートです。これを皮切りに私たちの「風越(かざこし)」世界ツアーが始まりました。車に乗り北アメリカを横断。指導や公演をしまわりました。たどり着いた先は、ニューヨークの先、東海岸はロードアイランドでした。

3月 アメリカ、ミネアポリスで、南インドダンスのグループ「ラガマラ ダンス」と「千一の観音」製作に取り組んだ1ヶ月。6名の踊り手にインド音楽家3名、声楽家、私たちTOKARA、総勢14名のステージ。一流の舞台スタッフにも支えられ、初演は大成功を収めることが出来ました。2015年、世界ツアーが待っています。

4月 残雪の中ミネアポリスからカナダへ。各地で指導やコンサートをさせて頂きました。ケローナ市には2週間程滞在し周辺の学校で8公演、800人満員御礼頂いた「風越」コンサート、指導…とツアーの最後を充実して過ごす事が出来ました。今回新しくお会いできた皆様、お世話になった皆様に感謝です。ありがとうございました。

5月 森久美子先生のフラメンコ東京公演への友情出演の為、帰国したのもつかの間、3日後にはイギリスに向け出発です。ここでメンバーは2班に別れ、6月の日本公演準備隊は地元長野県飯田市を中心にPR活動全開!で過ごした1ヶ月でした。もう1班はイギリス、アイルランドをワークショップに巡りました。

6月 イギリスからワークショップ組が帰国。メンバー揃って愛知県へ。邦楽アンサンブル「リベルタ」の皆様とコンサートが待っていました。6月は私たちTOKARAが毎年決まって地元で活動する月です。2週間に及ぶ「伊那谷和太鼓コース」、海外から14名の参加者が来飯され毎日どっぷり太鼓につかる合宿型ワークショップです。そして最終日には今年9回目の「幸い下伊那和太鼓フェスティバル」。石川県白山市から美しい赤いドレスの女性3人で構成された「炎太鼓」をお迎えし、大盛況のうちに無事終える事が出来ました。

7月 3年目になるアメリカ ミズリー大学の皆さんとの太鼓教室。汗飛び散る中、力余って沢山バチも折れました(笑)。そして私たちは再びイギリスへ。いよいよスコットランドへ乗り込みます。

8月 スコットランドは首都エディンバラで開催される「フリンジフェスティバル」今年2年ぶりの参加です。45分の公演を毎日続け計26回。多くの出会いとハプニングあり、一言では語り尽くせないこの1ヶ月。様々な経験と出逢いが何よりの宝です。

9月 これから約2ヶ月間、ドイツ メンヘングラーンバッハ市のアパートに滞在です。ここを拠点に、スイス、オランダ、ベルギー、ドイツ国内をまわりました。本当に隣町に出かけるように何処へでも行けてしまうヨーロッパ。とても魅力的です。面白いことは、人々の生活や文化に見えない国境がしっかりあるところ。

11月 日本に戻ってきました。久しぶりの日本。やっぱりお米は美味しいですね。学校公演の為、瀬戸市へお邪魔しました。元気で明るい子供達と太鼓を叩き、踊り…楽しい時間をありがとうございました。



10月 ドイツの日々が続く中、今回初となるポーランドへ。ジャパンウィークに参加させて頂きました。多くの皆さんとの交流があり、5日間はあっという間でした。そしてヨーロッパツアー最終公演は、お世話になったメンヘングラーンバッハ市で。

12月 事務所再起動ですっ！来年は和太鼓TOKARA 10周年記念。「風越」世界ツアーまだまだ続きます。PRに準備にトレーニングに…とどまることはありません。あっ、大掃除もしなくては！



メンバーが選んだ 2013年の出来事 ベスト5

雪嵐に追いかけて

毎年、ツアーに出ていると、嫌でもハプニングは付き物。何も無く無事ツアーが終わることはまず皆無に等しく、何とかハプニングを乗り越えて毎回ツアーを行っている…と言っても過言ではありません。

今年も数多くあったハプニングの中からメンバーにとって印象的だった北アメリカでの移動の様子を少しお伝えさせて頂きます。

私たちはバンクーバー空港でレンタカーに向かいます。ここから車を借りて東へと向かう為です。バンクーバーは温暖で雪も余り降らないのでしょうか。レンタカーで借りた車が、何と、普通タイヤ！です。えっ!? 今は2月。「雪用のタイヤは？」と尋ねると、破格な別料金が発生するそうで、契約上、自分達でスタットレス タイヤに変えることも禁じられているそうです。お国変われば…とはこんなことなのでしょうか？

結局、私たちのとった策は、そのまま車を借り、雪の少ないだろうルートを進むこと。まず、南へ国境を越えシアトルまで下り、そこから一路東へと進みます。とは言っても、東へ向かいロッキー山脈依いに山々が連なる辺りまで入ると直ぐに白いものが舞い始めます。辺りは銀世界。それでも、慎重に雪道を進みました。

なぜこうまでして移動しているのか？ そうです。私たちは5日の内に東海岸に着かなくてはなりません。大切なイベントが待っています。5日間、毎日10時間車で移動すれば到着する計算です。走行距離にして約5300キロ。アメリカは広いっ!! では何故、飛行機に乗り移動しないのか…? 確かに確実です。が、何とリーダーアート・リーは大の飛行機ギライ。それに加え、何よりも実費でツアーを続ける私たちには飛行機による移動は痛い出費です。予算削減、大切です。

とはいえ、2日目の朝のホテル。朝食時のテレビニュース、昨日越えてきた峠の高速が雪の為、通行止と出ています。雪が私たちを追いかけて来ます。こうしては居られません。早速、出発出発。こうして私たちの移動は続きました。そして無事、東海岸に到着したのです。

こうハプニングに遭遇していると、メンバーの中に連帯感、信頼感が増してきます。出来なさそうな事に直面すればする程、諦めない強さが養われる気がします。もしかしたら、私たちはハプニングが好きなのではないかと錯覚してしまう程です。が、合言葉は「やるしかね~!」。これからも邁進有るのみです。

北アメリカ 車で 5日間、5300キロ





太鼓で点火!!?

この1年を振り返って、メンバー全員から“最も印象に残った出来事”に選ばれたのは、9月14日、ベルギーはゲント市で開催された国内最大の音楽祭でのステージ!!

本当にこの日は私たちTOKARAにとって特別な一日となりました。まず、市内音楽ホールでの2回の公演。コンサートは50分。市内随所で様々な国から招待されたパフォーマンスが繰り広げられている中、私たちのチケットは完売です。力が入ります。1回目、好評を頂き無事終了。2回目、おとなしいと言われるベルギーの観客の皆様からも演奏の合間に掛け声がかかる程、熱いステージでした。

そしてここからが瑞骨頂!! 場所を移動して街の中央特設ステージへ。何とステージは川の上に建てられています。お客様はポートの上や川沿いに、ギッシリ総勢2万人。ステージにはシンフォニーオーケストラ...その前に、私たちの太鼓が並びます。私たちがトップバッターです。そしてここでその出来事が起きたのです!! コンサート開始を告げる第一打、これを打ったのが、我らがリーダー アート・リー。その一打と同時に...何と花火がステージ脇からお客様に向かって“ピューンッ!!”と飛んで行きました。これにはアート本人もビックリ。お客様からは大歓声です。その後も大スクリーンや照明、花火を駆使した豪華な演出。ピアノ、オーケストラ、オペラと続く豪華なキャスト。

自分の人生は何と幸せなのだろうと思わずにはいられない一日となりました。



熱い1ヶ月

今年1年の12分の1を過ごしたエディンバラでの8月。

この1ヶ月公演を抜きにして2013年を語る事は出来ません。ハプニングの連続でした。今年初めて会場として選んだ C Tooという劇場。持参した大太鼓が大きすぎて入らない...というハプニングから始まります。公演時間は45分。セットアップは5分のみ!! 毎日メンバー4人、無言で早送りのように動きました。毎日同じ曲。小さな会場の為、太鼓の大きな音に、決まって最初の一打で、お客様が飛び跳ねました。でも同じステージだったことは一度もありません。毎日違うお客様。(私たちの公演をととても気に入って、通ってくださった方もいらっしゃいました。有難いことです。) 違った雰囲気。9人のお客様という日からステージを囲むように大勢のお客様にいらして頂いた日もありました。色々な方との出会いがありました。楽屋でバッグが無くなるハプニングも。(5日後に、無事発見されましたので、ご心配なく。)

PRのために公園で太鼓を叩いた日。メインストリート“ローヤルマイル”で演奏した時には、太鼓の音が大き過ぎて、ステージの床を叩いて演奏する始末でした。配って歩いたチラシは8千500枚に上ります。期間中とめどなく続いたポスター貼り合戦で、街中のポールは楕円に膨らんでいました。終わってみれば素晴らしく充実した時間です。毎日劇場へ通った時間も、エディンバラの街を散策してまわった時間も、掛け替えのない素晴らしい経験でした。そして私達の奮闘したその1ヶ月も、一瞬にして大空をかけ走る稲妻のように過ぎ去って行ったのです。

『千一体の観音』の由来

千一体の観音。今年2月、南インド舞踊“ラガマラ ダンス”と共同製作し、出来上がった公演のタイトルです。“ラガマラ ダンス”との出会いは2005年の春。まだ産声を上げたばかりの和太鼓TOKARAが、アメリカ、テキサス州のフェスティバルに参加した際、同じステージを共有したのがきっかけでした。お互いにお互いのステージに惚れ込み、共同製作を企画。次の年、実現したのが、第一作目「Sva(スヴァ)」です。2006年から2009年、この作品で世界中をまわりました。ニューヨーク ブロードウェイでも、スコットランド エディンバラでも、そしてここ日本でも。

来日された際、皆で訪れたのが京都です。メンバー一押しで紹介した、三十三間堂。ここで“出会い”がありました。本堂の中、千一体の千手観音の前に安置された、二十八部衆と呼ばれる守護神達。これらは古代インドに由来しているもの、影響を受けているものが多いそうです。ヒンズー教と仏教の繋がり、思わぬ場所でインドと日本の関係を目の当たりにした瞬間でした。私たちラガマラとトカラ、インドと日本の舞台芸術を通してこの繋がりを表現したい。強い思いが私たちの共同製作第二作目となったのです。

1ヶ月の間、毎日スタジオに詰め製作は続きます。振付するラガマラリーダーのラニーさんとアパーナさん、作曲はアート・リーとインド打楽器ムルダンガム奏者ラジナさん。真剣勝負の毎日でした。プロの技術が交錯し、緊張感漂う中で少しずつ形が見えていきます。上手く合わなければ、全て1からやり直し。1ヶ月はあっという間に過ぎて行きました。

出来上がった作品は、息を飲む程 厳かに幻想的に始まります。大太鼓の深い音に能管の如き響く笛の音。ステージには微動だにしない守護神に扮した踊り手のシルエットが浮かびます。

...これ以上は観てのお楽しみ...。既に2015年世界ツアー予定です!!



思いがけない手紙

10月半ば、黄色に色付いた木々の葉がそよそよと、気持ちの良い青空が楽屋の窓から見えました。

私たちはポーランドの古都、ポズナンのオペラ座に居ました。この街に1週間、ジャパンウィーク参加のため滞在していたのです。この日は最終日。光栄な事に、私たちの出番は2時間コンサートの“とり”です。リハーサルから楽屋へ戻り、現地スタッフの方に手紙を渡されました。お客様から預かって下さったとのこと。

「私の国へ来て、素晴らしい演奏を有難う。貴方達を観て勇気をもらいました。元気が出てまた頑張ろうと思えました。夢は諦めなければ叶うと信じていけそうです。幸せだと思いました。有難う。」

涙が出そうになりました。挫けそうになるのも、負けそうになるのも私たちの方です。こうして観にいらして下さるお客様に支えていただいているのは、私たちの方です。本当にTOKARAの太鼓打ちで良かったと思えた瞬間でした。同時に前へ進み続ける力が湧いてきました。使命感に心を震わされました。

帰国した今、事務所のテーブルにこの時に頂いたポーランドのコースターが置いて有ります。この日の気持ちを忘れずに進んで行きたいと思えます。

ここ飯田があってこそ

1年は365日。その中で、今年2013年、地元長野県飯田市の皆様に私たちの太鼓をお披露目出来たのは、何と、たったの1日だけでした。

それ程、ツアーに歩き続けた1年だったと言えるかもしれません。今年は、リーダー アート・リーの芸歴 20周年、来年はTOKARA結成 10周年と続きます。2年間にわたり世界12か国を横断する世界ツアー「風越」の真っ最中。

ツアーのタイトルは、地元飯田市のシンボル、風越山の名前から頂きました。ここ飯田があってこそ、和太鼓TOKARAだからです。そんな私たちが地元で演奏できた特別な1日、6月29日は「幸い下伊那和太鼓フェスティバル」の日でした。

今年は7年ぶりとなるオリジナル曲「火霧」の再演。ゲストには「炎太鼓」の皆さんがご出演下さいました。日本の太鼓界を牽引してみえたと紹介しても過言ではありません。多くのお客様にもご来場頂き、温かい一日を過ごさせて頂きました。有難うございました。

日本に拠点を置きながら、多国籍のメンバーから成る私たち和太鼓TOKARAは、特殊なグループと言えるかもしれません。そんな私たちだからこそ、和太鼓は日本だけ日本人だけに留まらない美しい音楽芸術であり、世界にそれを広めること、和太鼓を通して海外と日本を繋げる架け橋になることが私たちの使命だと感じています。

長年、活動をしているとメンバーが日本人だけではないことを中傷される事もあります。クラシック音楽に用いられる楽器もドラムキットも以前は特定の国で生まれ長い歴史を経て世界中で愛され演奏される楽器になっています。いつか和太鼓にもそんな日が来るのでしょうか？

ただ私たち和太鼓TOKARAは、飯田の地で、皆様に支えられ、新しいステージを作り上げ、練習を積み、また次の公演へと旅立ちます。海外での公演ツアーが増えるこの数年、エネルギーの原点がここ飯田にあるのは確かです。風雨に耐え、堂々と美しく聳え立つこの風越山。この山の様に、それぞれの節目の年を越え、これからも力強く太鼓人生を歩んで参ります。





“風越”日本ツアー スケジュール

6月23 - 27日

伊那谷和太鼓コース
初心/中級者向け和太鼓合宿
長野県飯田市

6月28日

幸い下伊那和太鼓フェスティバル
スーパーショー 開演:午後 6:30
飯田市公民館
長野県飯田市

7月6日

“風越”名古屋公演
開演:午後 3:00
北文化小劇場
愛知県名古屋市

7月12日

“風越”飯田公演
開演:午後 6:30
飯田市公民館
長野県飯田市

7月25日

“風越”伊那公演
開演:午後 7:00
いなっせ(生涯学習センター)
長野県伊那市

7月26日

“風越”高山公演
開演:午後 6:30
芸術堂ホール
(飛騨・世界生活文化センター)
岐阜県高山市

8月11 - 15日

トカラ和太鼓ブートキャンプ
中級/上級者向け和太鼓合宿
長野県飯田市

2014年 世界ツアー 他スケジュール

2月5日

“風越”インド公演
インド、デリー市

4,5月

“風越”カナダツアー
バンクーバー市、ケローナ市

6月7日

典藝 (TenGei)
岐阜県中津川市
東美濃ふれあいセンター

6月8日

典藝 (TenGei)
愛知県小牧市
味噌市民センター

7月27日

典藝 (TenGei)
岐阜県郡上市
日本まん真ん中センター

9 - 12月

“風越”ヨーロッパツアー
ドイツ、スイス、ベルギーなど

2014年 販売グッズ

“風越”世界ツアー Tシャツ
2500円

5カ国公演 ハガキセット
200円

和太鼓教室

酔鼓(すいこ)

毎週月曜日
喬木村体育館
午後7:30 - 9:30

なでし鼓

毎週火曜日
飯田市公民館
午後7:30 - 9:30

お問い合わせ:

和太鼓トカラ事務所

TEL: 0265-59-8768 ウェブサイト: www.tokara.net メール: info@tokara.net

和太鼓 トカラ
WADAIKO TOKARA
Presents

和太鼓 風越

十周年記念世界ツアー

風越

愛知県 名古屋市
市北文化小劇場

長野県 飯田市
飯田市公民館

長野県 伊那市

生涯学習センター(いなっせ)

岐阜県 高山市
飛騨芸術堂

7月6日(日)

7月12日(土)

7月25日(金)

7月26日(土)

●開場14:30 開演15:00

●開場18:00 開演18:30

●開場18:30 開演19:00

●開場18:00 開演18:30

[料金]一般3000円 子供2000円
(当日500円増) 全席自由

[料金]一般3000円 子供2000円
(当日500円増) 全席自由

[料金]一般3000円 子供2000円
(当日500円増) 全席自由

[料金]一般3000円 子供2000円
(当日500円増) 全席自由

●会場情報

名古屋市北区志賀町4丁目60番地の31
TEL:052-910-3366

●会場情報

長野県飯田市吾妻町139番地
TEL:0265-22-1132

●会場情報

長野県伊那市荒井3500番地1 5階
TEL:0265-78-5801

●会場情報

岐阜県高山市千鳥町900-1
TEL:0577-37-6111